



◆新しいホームページ ◆オープンハウス ◆奥沢文化祭 ◆新しい日常 ◆おくさわ今と昔 ◆仁さんの思いを継いで

## https://okusawa.garden 会の新しいホームページです

特定非営利活動法人  
**土とみどりを守る会**  
Okusawa Garden Town

検索...

設立の趣旨 地域風景資産 界わい宣言 界わい形成地区 みどりの街づくりガイド  
23年の歩み 土まちみどり 奥沢グリーンマップ 奥沢ガーデントウン シェア奥沢

**おくさわ今と昔**  
このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。

**開かれた庭**  
とは

**みどりの街づくりガイド**

特定非営利活動法人 土とみどりを守る会  
奥沢2-32-11 (シェア奥沢内) tel 03-6421-2118 midori@okusawa.garden

会のホームページを刷新しました。

これまでの紙媒体は、奥沢2丁目にお住まいの方と会員しかお届けできませんでしたが、ホームページに全ての情報を掲載し、どなたでも、どこからでもご覧いただけるようになりました。紙だと捨てられて消えてしまう記事も、いつでも読めるのがデジタル化の恩恵です。

人気の「おくさわ今と昔」のこれまでの記事をまとめてお読みいただけるのが、さっそく好評です。

掲示板にも一部情報を掲出しますが、最新の情報、そしてガイドブックや奥沢グリーンマップなどの定番情報はホームページをご覧ください。スマホにも対応しましたので、どこでもご覧いただけます。フェイスブックページに いいね！ をすると、更新情報が届きます。

会のフェイスブックページのQRコード→



## 奥沢の風景を考える オープンハウス で展示をします

界わい形成地区は区の制度ですが、2017年の意見交換会から、奥沢交和会、土とみどりを守る会なども参加し、ワークショップ等により地元の方々の意見も反映されて検討が進められています。これまで、2回の風景祭が開催されましたが、今年は「オープンハウス」という小さな催しを開きます。

同一内容で4回開かれ、土とみどりを守る会も展示をします。奥沢の風景について一緒に学び、考えていく流れに、ぜひご参加ください。緊急事態宣言が延長されましたので、開催に影響が出る可能性もあります。開催状況は都市デザイン課のホームページ(下のQRコード)か電話でご確認ください。

奥沢の風景を考える 4日間2会場で開催

**オープンハウス**

「奥沢1～3丁目界わい形成地区」のイメージをお伝えします!

2/26 金 13時～19時30分  
2/27 土 10時～17時

3/5 金 13時～19時30分  
3/6 土 10時～17時

会場 奥沢区民センター2階 (奥沢3丁目47番8号) 奥沢まちづくりセンター2階 (奥沢3丁目15番7号)



世田谷区都市整備政策部  
都市デザイン課  
電話：03-5432-2039

## 第24回 奥沢文化祭が開催されました



2020年10月17日～18日に奥沢区民センターで開催された奥沢文化祭ですが、コロナ禍で、今回は規模を縮小し、特に感染対策を充分に行いながらの実施となりました。土とみどりを守る会は、奥沢ガーデンタウン構想の紹介をしました。都市デザイン課の界わい形成地区の取り組みと並んでの展示も3年目です。

奥沢文化祭には保坂区長が毎年「書」を出展されていて、今回は「書を讀み静かなるを知る」でした。奥沢文化祭は長い歴史があり、町会、商店会をはじめ、多くの地域の団体が連係し、自主的な運営で開催されているのが特色です。皆が文化というテーマでつながり、交流の場があることは、奥沢の誇りだと思います。



## 「開かれた庭」が生む 新しい日常の風景

シェア奥沢のカーポートの縁には、古い大谷石の塀の一部が残っていて、その高さがちょうど腰掛けるのに良いので、時々通りがかりの人が座って一休みされていました。そこで、その上に板を固定して「ベンチ」にしたところ好評で、利用者がとても増えました。座面は敷地内ですが、足が道路にはみ出るのが問題ですが、この微妙な関係が良いようです。最初は玄関前に既製のベンチを置いたのですが、装飾品のように見えたのか、あまり利用される人がいませんでした。

2枚目の写真は、シェア奥沢の向かいにある集合住宅の広場の、最初の緊急事態宣言の時のスナップです。自宅勤務となったお父さんが、小さな広場にチェアを出して仕事をされ、休校になり遊んでいるお子さんを見守っているという、ちょっとしたのどかな風景です。これは、まちが公園のようになるという「開かれた庭」の新たな展開のように見えます。このような日常の風景があるご近所は、ちょっと幸せな気持ちになれます。

左は、2019年秋の「風景祭」で開放したシェア奥沢の様子です。これが契機となり、2021年春には、シェア奥沢で「ガーデンカフェ」（仮称）を開く予定です。これについては改めてホームページでお伝えします。



# おくさわ今と昔

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移って来た方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。



バックナンバー

## 歩いていてほっと心が休まる街

奥沢1丁目 奥富 正敏

奥沢一丁目に住み始めてから、ちょうど10年になりました。不動産屋さん連れられて初めてこの場所に見に来た時、近くにある大きな木や道祖神、駅に続く斜めの道路や緑の多い周辺の環境などを見て、「ここしかない!」と確信し、すぐに購入申し込みを入れたことを覚えています。

土地は六差路の交差点にあり、交差点に突き出るような形で道路と長い距離離しています。家を建てるに当たり、(土地が狭いという理由もありますが..)道路との境界に塀を作らず、建物と道路との間のスペースはなるべく土の部分を残して、植栽や花壇にすることにしました。



普段なかなか時間がとれず、植物の世話が行き届いていないとはとても言えないのですが、それでも通りがかりの方が、「このお花、とてもきれいですね。」とか「いつもここを通るのを楽しみにしています。」などと、よく声をかけてくださいます。少しでも喜んで下さる方がいると思うと、うれしい気持ちになります。

私達は夫婦ともども、奥沢をとっても気に入っています。交通便利な場所にありながら、都会の喧騒とは無縁であり、かといって高級住宅地にありがちな閉鎖的な静けさでもなく、通りを歩けば人や緑のぬくもりを感じられます。ただ、ともすると緑豊かな環境は無意識のうちに失われかねません。どうかいつまでも、歩いていてほっと心が休まるような街であってほしいと願っています。そのためにも、我が家のガーデニング、もっとがんばらねば、と思うこの頃です。

## 街の記憶を伝える

平野 久美子 (以前、奥沢2丁目にお住まい)

異国の街角で、私は強いノスタルジアにとらわれたことがある。それは十数年前、台湾に残る日本家屋を取材に行った時だった。戦前、臺北帝国大学の教授らが住んでいた平屋建ての家々は、どこも200坪ほどの敷地があり玄関まで飛び石が誘う。客間のインテリアや窓はモダンな洋風だが、母屋には庭全体を見渡せる長い廊下が連なっていた。風情ある木造家屋と緑陰の濃い街角。それは私の脳裏に焼き付く昭和30年代の奥沢の風景と重なった。

祖父が2丁目の”海軍村”に土地を購入したのは昭和3年。武蔵野の面影と畑が広がる中を、「タヌキに混じってスイカを失敬したり、空気銃でズメを撃ったりした」と、父から昔話を聞いて育った私は、台湾の研究者にもつい、「この付近は、昔タヌキが出たでしょう」と質問した。すると「キョン(小型のシカ)もいたようです」と言われびっくりしたものだ。

父の頃ほどではないにせよ昭和30年代の町内にはたくさん遊び場があった。まだ舗装されていない道路にできる大きな水たまりにはアメンボウが泳いでいたし、暗渠になる前の呑川では魚が釣れた。”ドイツ村”と呼ばれる留学帰りの学者さんたちが住んでいたエリアは、探検にもってこいだ。あれから半世紀。思い出の詰まった子供時代の奥沢はすっかり姿を変え、ドイツ村も海軍村も消えさせた。砂利道を海軍士官が馬で通勤する際の、ひびきの音で目が覚めたという父の語り草はおとぎ話のようだ。

私が台湾の日本家屋保存運動に協力するのは懐かしさばかりではない。新旧の住民同士が家の歴史を共有する交流に、学ぶことが大きいからだ。家の記憶は個人のものだが、時を経てそれは地域のものとなる。そう街の記憶だ。奥沢の今昔を語り継ぐことはアイデンティティーを次世代へバトンタッチする、大切なことと思っている。



台北市大安区に残る、昭和初期の日本家屋。海軍村住宅と類似点が多い。



## みどりの街づくりガイド 改訂版について

みどりの街づくりガイドの増補改訂版を今年度中に発行いたします。このガイドで提案した「開かれた庭」というテーマを、会の活動の柱とし、より具体化を目指します。(世田谷区の「絆」助成金を取得しました)

まちづくりガイドは、ホームページでも公開、更新することで、より多くの人に活用をしていただけるようにします。内容については、都市デザイン課と連携し、「界わい形成地区」に活かせる内容にする予定です。

### 仁さんの思いを継いで

当会の創設メンバー、故柳島尚子さんの後を継いで長年にわたり事務局長をつとめていただいた 鈴木 仁さんが、2019年10月19日に白血病のためにご逝去されました。

これまで、会の運営がつつがなくできた背景には、仁さんの存在がありました。一同、心から感謝しております。

会ではこれまでに様々な活動を行っていますが、ニューズレターの発行、つどいの開催などの定例の仕事のほか、新たな案件についても、仁さんにはいつも率先して取り組んでいただきました。法人の設立や助成金の申請などがスムーズにできたのは手続に慣れている仁さんのお陰です。その他、自宅庭でのチェリーセージの苗の育成、そして町の清掃活動といった、エリートのを歩んで来られた方が地道な現場の活動に献身され、これはなかなか真似ができません。私も仁さんから学んだ、このような自ら率先して実践する姿勢を大事にしていきたいと思えます。

コロナ渦の折、コアメンバーは、これまで仁さんが担われていた仕事を、無理なく展開、継続するための検討を重ねています。

ニューズレターのデジタル化といった改革、そしてこれまであまり外に見えなかった会の活動の「見える化」により、より多くの方、新しい世代も楽しく参加できる、開かれた活動にしていきたいと考えています。

堀内正弘



鈴木さんの家の横を通るたびに草木の手入れをしている鈴木さんの姿が見えないか、今までの習慣でつい見てしまいます。会にとってなくてはならない方でした。今ここで大きな大きな力を失ってしまったことを痛感しています。

仕事をリタイアされてから会のために尽くされ、地域のこともさまざまなことに関わって、時間のある限り何でもされました。その姿勢は頭の下がる思いでした。小さな雑用から大きな問題まで全てをひきうけられ、お願いすれば物事は片付いていました。今、何かをするたびに、鈴木さんどうすればいいの?と返ってくる返事はなくてもつい聞いてしまいます。私たちはそのやさしさに甘え支えられ居心地よく過ぎていました。

これまでの努力で積み重ねてきた丁寧であたたかな人とのつながりの灯を消すことなく続けていくには、そして鈴木さんの思いをどう受け継いでいったらよいのかと思う日々です。

玉置敬子

### 会からのお知らせ

新型コロナの感染防止のため、今年度はつどい、まち歩き等の活動を中止し、ニューズレターの発行は今号のみとしました。それに伴い、今年度は会員から会費を集めません。現在、会のコアメンバーは、ホームページの更新やガイドブックの改訂といった、次の展開の下準備に尽力をしています。最新情報、ホームページの更新案内は Facebook ページをご覧ください。

### 土とみどりを守る会 事務局

158-0083 世田谷区奥沢 2-32-11 シェア奥沢

電話：03-6421-2118

ファクス：03-5701-5903

e-mail midori@okusawa.garden

<https://www.facebook.com/okusawa.garden>